

令和6年度 京都市小学校道徳教育研究会

活動計画

1. 活動目標

- ・ 令和9年度全国大会開催に向けての組織力・実践力の向上
- ・ 京都市小学校道徳教育研究会 研究大会の実現
- ・ 授業研究の充実(育成・低・中・高学年部会の充実)
- ・ 研究会員の発信力の向上・授業力の向上

【目標設定の理由】

本研究会は、道徳の授業研究を中心に研究会活動を進めてきた。令和2年度の新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小していた研究会活動も令和5年度にはほぼ以前と同様の研究活動を行うことができるようになった。

各部会では、何度も授業研究を行い、指導案についても十分議論を重ね検討することができた。部会のメンバーそれぞれが自校で実践を行い、その交流も行うことができた。各部会には研究会に所属する校長が指導・助言に当たり、研究を支えてきた。各部会で練られた授業案を持ち寄り、令和5年度には京都市立美豆小学校にて京都市小学校道徳教育研究大会を開催することができた。

令和9年度には京都市での全国大会開催が決定しており、授業づくりについての京都市の考え方を全国に向けて発信していくことになる。研究会に所属する校長のどの学校でも研究大会を開催することができる土壌づくりを進めていく。今年度は京都市立稲荷小学校での京都市大会を開催する。令和5年度から令和8年度までの4年間で部会ごとに数本の授業案を練り上げ、9年度の全国大会での公開授業案としていく。そのために、前年度同様、各部会がそれぞれの授業研究を真摯に進め、より質の高い授業を求めていくことが大事になる。

研究会員はそれぞれが誇りとプライドをもって道徳の研究を進め、道徳の授業で子ども達と心揺さぶる素晴らしい時間を過ごしている。一人一人が授業力を高め、道徳に対する考えも深めている。今までに研究会活動の中で学んだことや多くの実践を「道楽会」で発表したり、「道徳だより」として学びをまとめて発信したりすることに力を入れていきたい。人に伝えることで研究会員のそれぞれの力もさらに向上していくと考えている。

子どもの心に届く授業、子ども達が自分自身の生き方を見つめ直すことができる授業を多くの教員が実践できるようにすることや「人としてのより良い在り方」「自分の生き方を自分で決めていくこと」を考えることを引き続き大事にしていくことに変わりはない。その中で、新たに一人一人のGIGA 端末を道徳の授業で活用することで、子ども達の道徳性をさらに引き出していけるのではないかと様々な実践を通して模索中である。

研究会役員を中心にメンバーのつながりを大切にしながら研究会員の実践力を高め、全国大会を運営できる力量をつけることが、研究会、会員の所属校、全市にさらには全国にその成果を還元していくことにつながると考え、この目標を設定した。

2. 今年度のおもな活動内容

今年度も、11月の京都市小学校道徳教育研究大会を目標にし、それぞれの部会で研究会活動を進めていく。役員会は基本毎月行い、各部の進捗状況を知り、大会に向けての情報共有や問題解決に向けて話を進めていく。授業研究については参集を基本としながら、場合によってはオンライン参加などをうまく組み合わせ確実に実践を積み重ねていけるようにしていく。新人勉強会は今年度も年3回同メンバーに丁寧に心を込めて道徳の良さを伝えていく。道楽会では、研究会メンバーの力量アップと全市へ道徳のすばらしさを伝えることを目的とし取り組んでいく。道徳だよりは、全市への発信はもちろんのこと、研究会員もまた自らの学びを整理することにも大いに役立てながら、今後も多くの人々が楽しんで読めるものを発信していく。このすべての活動を庶務部が把握し、円滑に研究会活動が進められるように調整していく。

どの活動でもどの部でも「つながり」が感じられる研究活動を進めていくことで、研究会員はもとより、多くの指導者が支え合えあえるようにしていく。一人一人が自分の出来ることを考え、積極的に研究会活動に参加していけるようにしていきたい。今まで小学校道徳教育研究会が大事にしてきたものを守りながらも、新しい形も柔軟に取り入れ研究会活動を発展させていくことができるようにする。

研究主題

よりよい生き方を求め、自ら気づき、考え、行動する子の育成を目指した

「しなやかな道徳教育」

～自己の生き方についての考えを深める学習を通して～

【主題設定の理由】

本研究会では、今年度も研究主題を

『よりよい生き方を求め、自ら気づき、考え、行動する子の育成を目指した“しなやかな道徳教育”』、～自己の生き方についての考えを深める学習を通して～

として、これからの道徳教育が果たす大きな役割への期待に応えられるように、また、そのための研究に取り組んでいく。

本研究会の考える“しなやかな道徳教育”とは、柔軟性があり、かつ、決して折れない心の芯がある道徳性を育てることである。この“しなやかな道徳教育”を進めるにあたっては、新学習指導要領で定められている「特別の教科 道徳」の目標に則り、道徳的諸価値についての理解を基に「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的に考える」「自己の生き方についての考えを深める」学習を行う必要がある。

これら3つの学習過程のうち、今年度も「自己の生き方についての考えを深める」を重点的に取り上げる。この「自己の生き方についての考えを深める」については、令和2年度より実施されている「生き方探究パスポート」（京都市版 キャリア・パスポート）の取組にも関連が深いものとする。

先の見えない、予測困難な社会をどのように生きていくか、自分なりにどのようにして道徳性を発揮していくのか考えることは、大人だけに限らず、未来を力強く生き抜く子どもたちにも求められている。そのような子どもたちに、道徳科及び道徳教育を通してどのような力を付けていくことができるのか、研究会活動として探究していきたいと考える。

3. 研究組織と業務・役割

	研究部	研修部	庶務部	広報部
主な業務	授業づくりの研究 ・京都市研究大会 ・道楽会での部会の実践発表 ・授業研究等 各部会ごとに計画	研修の企画・運営 ・道楽会（授業力up研修会） 部会の実践発表計画 年2回 ・新人勉強会 年3回 メンバー固定	企画・連絡・調整 ・役員会運営 ・京都研究大会運営 ・フォルダ管理 ・会費の管理・運用 ・全小道・近小道 大会参加集約等	通信の発行 ・HP ・道徳だよりの発行 ・道徳研究会報 ・全小道・近小道 大会要項配布等
詳細及び変更点	部会は4つ 低・中・高・育部会 令和6年度も、基本集合研修とする。 チームス、メール等を使っての情報交換	令和6年度は ・道楽会（授業力 up研修会）を行う。 若手向けの内容 道徳教育の内容（キャリア教育） ・新人勉強会を行う。 メンバー10名程度	会計係を置く ・会費運用 ・懇親会 計画運営 庶務係を置く ・会員募集・連絡 ・印刷・全市配付等	通信発行（取材・作成）を複数人で分担 道徳の授業実践を行った研究会員に <u>原稿依頼</u> を行う。 HPの充実 広報部教頭への原稿依頼を行う。
指導助言	鎌田 賢二 副会長 桑田 佳子 副会長 近藤 清美 副会長 居林晃一郎副会長	佐久間寧子副会長 田野 博文 副会長	三上 美香副会長	前田 恵美会長
全国大会に向けてつきたいおもな力	いつでも・だれでも どんな学年の授業も 公開できる力 授業分析力 指導助言力	いつでも・だれでも どんな内容でも 実践発表できる力 講師としての指導力 企画・運営力	組織運営力 事務処理力 自ら役割を担う力	情報収集力 情報発信力 情報をまとめる力 分かりやすく伝える力

【研究主題に基づいた各部の取組】

〔研究部〕

今年度の研究テーマ

「(道徳的価値の理解をもとに) 自己の生き方についての考えを深める授業づくり」

昨年度に引き続き、この研究テーマに沿った道徳科の授業を育成・低・中・高学年の四部会を設定し、授業を伴った研究部会を充実・発展させ、より多くの研究会員が研鑽を積み、授業力を高めていけるようにする。基本的に部会は参集とし、参加が難しい時はチームスを活用し授業研究を進める。記録をとりまとめ、全会員で共有、交流する。部会での実践は「道楽会(授業力 up 研修会)」で実践発表したり、部会での活動の様子や学びを道徳だよりとして発行したりしていけるようにする。多くの実践や評価(成果と課題)を共有していくことで全会員のみならず、各学校で活用されるようにしていく。

〔研修部〕

各校における道徳教育や道徳科の授業がより充実するような題材(ネタ)を紹介し、それに則った取組を会員が個人実践したものを「道楽会(授業力 up 研修会)」で実践発表できるようにする。その企画運営を研修部が担う。自己の授業実践を発表する場をできるだけ多くの会員に経験させることで 個々の発信力等の力量を高める。年 2 回

また、若年教員を対象とし、「新人勉強会」を開催する。同一メンバー対象 年 3 回 10 名程度。新人勉強会の講師を研究会役員(研修部メンバー)ができるようにしていく。

〔庶務部〕

役員をはじめとする会員の連絡・調整にあたる。連絡は、メールが主となるが、フォルダ管理を行い、それを広報することで、情報を共有・活用しやすくする。

令和6年度の役員会等は、参集を基本とするがオンラインでも参加できる状況を作って役員会等開催の運営に中心となってあたる。

また、研究会費の管理・運用を行う。会費の徴収については庶務部から連絡を行う。

京都市教育委員会委託金(図書費)の運用を行う。

全小道、近小道参加者の取りまとめ、大会申込等を行う。

〔広報部〕

研究部及び研修部でとりまとめた実践記録の中からピックアップしたものを、「通信」として発行したり、授業づくりのポイントや教育技術を紹介したりする。(HP掲載)

道徳を学ぶ上で 必要な情報を提供する広報誌を作成する。

個人の実践発表等も研究会員に広報し、共有していく(令和6年度は経験豊かな教頭先生、役員等を中心に 道徳だよりの発行を進める)。

4. 各部活動計画表 別紙